

平成 30 年度 事業報告書

(平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日)

事業の状況

1. 助成事業

情報科学の国際的研究交流を推進することを目的とした、研究者海外派遣助成、外国人研究者交流助成及び特定分野研究交流助成の実施状況は以下のとおりである。

1.1 研究者交流助成

(1) 研究者海外派遣助成

将来を担うべき有能な若手研究者を対象に、海外で開催される情報科学に関する国際研究集会派遣のための渡航費及び滞在費の一部を助成した。

①募集・選考

助成募集要項及び申請書は財団ウェブページに掲載するとともに、大学等学術研究機関の情報系関連部署 207 ヶ所に募集案内を郵送した。平成 30 年 4 月 1 日～5 月 31 日まで公募したところ、43 件の申請があったが、選考前に申請取下げが 2 件あり、審査対象は 41 件であった。

6 月 25 日開催の選考委員会において慎重に審議し、7 件を採択とし、他に補欠 1 件を選考した。

②決定・交付

選考委員会の選考結果を受け、理事長が平成 30 年度研究者海外派遣助成金交付対象者を決定し、下記表のとおり 7 件に助成金を交付した。

助成件数 7 件、助成金交付総額 1,070,000 円

氏名・所属	参加国際会議	助成金額
宮本 辰 博士前期課程 1 年 日本大学大学院理工学研究科	IEEE Computer Society Annual Symposium on VLSI - ISVLSI 2018 (香港)	70,000 円
木村 慧 助教 豊橋技術科学大学大学院工学研究科	27th International Joint Conference on Artificial Intelligence - IJCAI-ECAI-18 (スウェーデン)	180,000 円
矢野 寛明 修士課程 2 年 長岡技術科学大学大学院工学研究科	SIGGRAPH 2018 (カナダ)	160,000 円
桐畑 誠 修士課程 1 年 京都大学大学院情報学研究科	29th International Conference on Database and Expert Systems Application - DEXA 2018 (ドイツ)	180,000 円
津島 啓晃 修士課程 2 年 京都大学大学院情報学研究科	19th International Society for Music Information Retrieval Conference - ISMIR 2018 (フランス)	180,000 円

氏名・所属	参加国際会議	助成金額
柴田 峻敬 修士課程1年 香川大学大学院工学研究科	IEEE International Conference on Image Processing - ICIP 2018 (ギリシャ)	180,000 円
松村 耕平 講師 立命館大学情報理工学部	ACM International Joint Conference on Pervasive and Ubiquitous Computing - UbiComp'18 (シンガポール)	120,000 円

(2) 外国人研究者交流助成

将来を担うべき有能な外国人研究者又はそれを受け入れる研究者を対象に、日本で開催される国際研究集会参加、又は日本の研究機関において共同研究を行うための渡航費及び滞在費の一部を助成した。

① 募集・選考

助成募集要項及び申請書は財団ウェブページに掲載するとともに、大学等学術研究機関の情報系関連部署 207ヶ所に募集案内を郵送した。平成 30 年 4 月 1 日から 5 月 31 日まで公募したところ、9 件の申請があった。

申請者別： 受入れ者による申請 5 件 外国人研究者本人による申請 4 件

目的別： 調査・共同研究目的 5 件 国際会議参加目的 4 件

6 月 25 日開催の選考委員会において慎重に審議し、1 件を採択した。

② 決定・再選考・再決定・交付

選考委員会の選考結果の報告を受け、理事長が平成 30 年度外国人研究者交流助成金交付対象者 1 名 (Henry Fuchs 氏、ノースカロライナ大学、IEEE VR 2019 参加) を決定し、受入れ者に結果を通知した。その後、対象者の来日が不可となったため決定を取り消した。対象者が会議目的での来日だったため、特別に同会議の別の講演者を審査対象に加え、あらためて全申請者を対象に選考委員が再審査を行い、平成 30 年 8 月 8 日に 1 件採択した。これを理事長に報告し、平成 30 年度外国人研究者交流助成金交付対象者として下記のとおり決定し、助成金を交付した。

助成件数 1 件、 助成金交付額 160,000 円。

外国人研究者氏名・所属	参加会議	出発地	助成金額
Anuradha Annaswamy 上席主任研究員 マサチューセッツ工科大学	IEEE International Conference on Systems, Man, and Cybernetics - IEEE SMC 2018	アメリカ	160,000 円

1.2 特定分野研究交流助成

ソフトウェア分野における情報技術の将来を見通した研究課題の提言を行うことを目的に、産学の研究者が協同で行う調査研究交流に対する助成を平成 10 年度から 19 年にわたり行ったが、平成 28 年度を以って当該助成募集を行わず、平成 29 年 6 月に平成 28 年度の全体報告会を行った後、本事業は休止している。

2. 競技会開催事業

将来を担う情報科学の若手研究者の育成のために、情報技術に関する競技会の開催及び関連する事項について以下のとおり行った。

(1) プログラミングコンテスト(ICPC2018)開催

競技開催費 12,268,338 円。

ACM(国際計算機学会)が年1回、世界的規模で開催している国際大学対抗プログラミングコンテスト(ACM-ICPC)のアジア地区予選としてICPC2018横浜大会を慶應義塾大学と共同で開催した。

①経緯

開催協力校を慶應義塾大学が務め、ICPC2018 横浜大会を行うことを財団 ICPC 運営委員会の決議を経て理事長が決定した。

②実施概要

日時：平成30年12月8日～10日

場所：横浜産貿ホール(神奈川県横浜市中区山下町2番地)

神奈川県民ホール(神奈川県横浜市中区山下町3-1) 他

主催：ACM-ICPC 横浜大会実行委員会、慶應義塾大学、(公財)情報科学国際交流財団

実行委員長：高田真吾(慶應義塾大学教授)

審判長：石畑清(明治大学教授)

内容：大学院、大学及び高等専門学校の同一校の学生3人が1チームを構成し、コンピュータプログラミングの正確さと速さを競うコンテストで、世界大会出場のための選抜大会として、世界各地で地区大会が行われる。本大会は平成31年4月に開催される世界大会のアジア地区予選に該当した。まず、平成30年7月6日にインターネットを利用して日本国内予選を実施し、411チームから51チームを選抜した。台湾、中国、香港、シンガポールの9チームを加えた計60チームが横浜産貿ホールで一堂に会し、平成30年12月9日に本選コンテストを行った。国際大会のため、出題、進行等についてはすべて英語で行い、5時間にわたるコンテストの後に、審判団からの問題解説、表彰式のほか、交流を目的とした懇親会を行った。

また、コンテストの翌日に、協賛企業見学においてICPC参加経験者やエンジニアスタッフの話を聞くなど、参加者の見聞を広める機会を設けるとともに交流促進を図った。

参加数：国内予選(平成30年7月6日インターネットを利用して開催)・・・86校411チーム

横浜大会本選・・・国内38校51チーム、海外8校9チーム 計46校60チーム

(最後の池辺記念奨励枠として、青山学院大学及び同志社大学の2校2チームを選抜し、154,260円を充てた。これを以って6年間の当該枠の支出は終了した。)

結果(大学順位)：1位北京大学、2位東京大学、3位国立台湾大学

日本の大学は、他のアジア地区予選での結果を併せ、東京大学、筑波大学、京都大学及び早稲田大学の4チームが平成31年4月開催の世界大会への出場権を得た。

(2) ICPC 地区大会及び世界大会への派遣

① ICPC2018 世界大会への派遣(コーチ及び選手)

派遣補助 3 チーム、計 619,510 円。

平成 29 年度の地区予選大会(ICPC2017 つくば大会)で選ばれた 3 チーム(東京大学、東京工業大学及び筑波大学)を平成 30 年 4 月 15 日～20 日に北京(中国)で開催された ICPC2018 世界大会へ派遣した。世界大会は各地区予選から選抜された 140 チームが参加し、日本チームの成績は、東京大学 4 位(金メダル)、東京工業大学 31 位であった。

② ICPC2019 世界大会への派遣(コーチ及び選手)

派遣補助 4 チーム、計 2,351,208 円。

平成 30 年度の地区予選大会(ICPC2018 横浜大会)で選ばれた 4 チーム(東京大学、筑波大学、京都大学及び早稲田大学)を平成 31 年 3 月 31 日～4 月 4 日にポルト(ポルトガル)で開催された ICPC2019 世界大会へ派遣した。世界大会は各地区予選から選抜された 135 チームが参加し、日本チームの成績は、東京大学 3 位(金メダル)、筑波大学 21 位、京都大学及び早稲田大学は共に 41 位であった。

③ ICPC2018 世界大会への派遣(指導者)

派遣 3 件、計 171,715 円。

前述①の世界大会の会期中に行われる指導・運営に関する会議に、財団 ICPC 運営委員長・寛捷彦理事長、ICPC2018 横浜大会実行委員長・高田眞吾教授(慶應義塾大学)及び審判長・石畑清教授(明治大学)を派遣した。

④ ICPC2019 世界大会への派遣(指導者)

派遣 2 件、計 417,140 円。

前述②の世界大会の会期中に行われる指導・運営に関する会議に、財団 ICPC 運営委員長・寛捷彦理事長及び ICPC2019 横浜大会実行委員長・高田眞吾教授(慶應義塾大学)を派遣した。

⑤ 日本開催以外の ICPC2018 アジア地区予選への派遣

派遣補助 4 チーム、計 693,306 円。

国内予選 1 位の東京大学(Gifted Infants)、6 位京都大学(Zerokan_Sunshine)、9 位会津大学(UKUNICHIA)を平成 30 年 11 月 3 日開催のソウル大会(韓国)へ派遣し、東京大学チームが 2 位の成績であった。予選 2 位東京工業大学(narianZ)は 11 月 30 日開催のハノイ大会(ベトナム)に派遣した。

(3) ICPC に関わる予備練習会の開催

過去に行われた ICPC への参加経験者(OB/OG)の協力のもと、予備練習会を行った。

本選参加チーム全体のレベル向上、競技プログラミング界全体の活性化を目標に、平成 30 年 9 月 15 日～17 日にわたり国立オリンピック記念青少年総合センターにおいて横浜大会に向けた強化合宿を行った。

参加者：選手 57 名(15 大学)、スタッフ 10 名計 67 名 開催補助費：200,000 円

(4) ICPC2019 の開催

平成 31 年 1 月 10 日の ICPC 運営委員会において、本年度に引き続き、開催協力校として慶應義塾大学を選定、大会委員長に高田眞吾教授(慶應義塾大学)を選任し、2019 年 11 月 16 日～18 日に横浜産貿ホール・神奈川県民ホール(神奈川県横浜市)において ICPC2019 横浜大会を開催することについて理事長が決定した。また、平成 31 年 2 月 15 日の同委員会で審判長に前原貴憲氏(理化学研究所)が選任され、理事長が決定した。

以上